



—東北生産性本部—

第35回仙台シンポジウムの概要

平成24年度に実施する第35回仙台シンポジウムの概要が纏まった。今年度の第34回開催においては、延べ465名の皆さまから参加を頂き、盛会裡に開催できた。仙台シンポジウムは当本部のシンボル的な事業であり、第33回より開催方法を見直し、多くの皆さまから好評を得ている。第35回仙台シンポジウムの概要は下記のとおりであり、多くの皆さまからの参加申込をお願いしたい。

例会	日時	分野	講師
6月例会	6月22日	日本経済	第一生命経済研究所経済調査部主席エコノミスト 永瀬 利廣 氏
7月拡大例会	7月12日	地域経済	慶應義塾大学大学院法学研究科教授 片山 善博 氏
8月拡大例会	調整中	社会情勢	(財)日本総合研究所理事長 (株)三井物産戦略研究所所長 寺島 実郎 氏
9月拡大例会	調整中	行政改革	慶應義塾大学総合政策学部教授 大阪維新の会 政策顧問 上山 信一 氏
11月例会	11月16日	国家財政	大塚ホールディング株式会社副会長 元国税庁長官 大武 健一郎 氏
12月例会	12月13日	国際情勢	国際政治アナリスト 小川 和久 氏

1. 時間は、14時～15時半
2. 場所は、仙台商工会議所会館7階大ホール
3. 参加費は、企業（2名登録）12万円、組合（2名登録）9万円
なお、7月・8月・9月の拡大例会は、参加1名付き1万円で申込可

平成24年度労使セミナー・労使研究会の概要

労使セミナー・労使研究会は、平成22年度より衣替えをし、それぞれの特徴を持ちながら開催してきた。その結果、平成22年度は労使セミナー76名、労使研究会延べ170名、平成23年度は労使セミナー58名、労使研究会延べ176名の参加を得て盛会裡に開催できた。平成24年度は下記の概要であるが、多くの皆さまからの参加をお願いしたい。

労使セミナー（大テーマ 人材育成）10月23日（火）13時半～16時45分 ハーネル仙台

部	小テーマ	講師
第一部	グローバルゼーション下の人材育成（能力開発）	早稲田大学政治経済学術教授 白木三秀 氏
第二部	人材育成に向けて賃金制度が果たしてきた役割	電機連合書記次長 黒木 聰明 氏

* 参加費一人 6千円

労使研究会（大テーマ 社会の変化にどう向き合うか）

第1回例会～第4回例会、14時半～16時 東北電労会館

例会	日時	小テーマ	講師
第1回	9月12日	人口減少時代	東北活性化研究センター調査研究部部員 主席研究員 大泉 太由子 氏
第2回	10月3日	ユビキタス社会	サーバー大学教授 前川 徹 氏
第3回	翌年2月6日	格差社会	国際労働財団常務理事 團野久茂 氏
第4回	翌年3月6日	歴史から学ぶ	富士社会教育センター理事長 大松明則 氏

* 参加費 企業2名登録4万円、組合2名登録3万5千円

第一義～彼岸が過ぎ、春は近いが、政治は停滞～

3月は卒業・別れの時、4月は入学や入社・出会いの時である。入社以来、41回この時期を迎えた。卒業（定年）まで後1年となった。同期280名は、入社は同じでも、退職はバラバラである。特に最近は、転籍もあり、年金の移行期でもあり、バラバラ感は際立っている。残念・無念であるが、卒業を待たずに亡くなった同期もいる。2010年のガン、心疾患、脳血管疾患の三大死因は、減少し過去最低になったという。健康意識や健康対策が高まったことのようだが、依然として東北地方の死亡率の高さが際立っており、喜びは半分だ。国会審議、与党内論議は、依然として足の引っ張り合い、国難を一致団結して乗り越える、政局や党内事情を超越した国を預かる者としての覚悟や責任が見えない。党の存在や個人の存在を誇示するのに躍起になっている。国家公務員の給与カットが漸く決着したが、二年間の限定という。詐欺にあったような感覚である。はっきりしている課題に対し、優柔不断な態度は、誤った決断に劣る（過ちは直ぐ判るから）という。正にその通り。問題の先送りは何も解決しない。民主党と自民党的な党首が打開のための密会を見て見ぬふりをする余裕もない。声を大にしていう時は、独断で暴走した前首相の時に言うべきである。大義を見失ってはならない。（記S・S）